2018年Web写真展入賞者及び講評

最優秀賞　　宇留野 稜「響」常陸大宮高校２年

暗い背景に白い衣装の男性と紅白のバチ・大太鼓の単純な画面構成だが、太鼓を叩く男性の力強いしぐさがうまく表現され見ごたえのある作品になった。弱い光の中でブレずに撮った技量の高さも評価したい。

優秀賞　　小暮 亜希子「動き出した人形」下妻第二高校１年

暗い廊下にライトが反射し、メルヘンチックな情景を醸し出しています。足や手の動きが題名にマッチしています。低い位置から狙ったことで全身の影もうまく表現され画面に変化を与えています。上部の空間や左の明かりが気になるので上部と左をトリミングすれば更に見栄えのある作品になります。

優秀賞　　岩田 滉平「鬱　夏」霞ヶ浦高校３年

左の写真は怪しげな空模様とのコラボで単写真としても評価できる。中のヒマワリと右の蓮の写真は同じ大きさ・同じ位置関係にあるので、中央のヒマワリを花だけアップにして表現すると変化が生まれて更に一歩前進した組写真になると思います。

佳作　　髙橋 桃夏「境　界」藤代高校１年

画面構成は単純だが、カモが泳ぐ水面が上下２色に分かれきれいな写真です。波紋によるグラデーションも画面に変化を与えとても良い作品になりました。

佳作　　植頭 康太「現実という名の怪物」勝田高校２年

題名が理解しにくいところだがポートレートとしては完成度の高い作品です。横位置だと間の抜けた写真になってしまうので左は赤文字のRのまん中で切り、右はLまで入れた縦写真にすると作品としての女性の存在がより明確になると思います。

佳作　　飯田 恭多「HOPE」波崎高校２年

題名から作品をイメージするのは難しいところだが標準的な組写真でまとめている。1枚1枚の写真がしっかりと撮れていて高校生らしくて好感がもてる。欲を言えば、船のレアな部分や光線を工夫して切り取った写真を入れて組んで欲しかった。

佳作　　石川 さくら「弾ける甘さ」太田第一高校２年

斬新なシチュエーションで意表をつかれた作品です。暑い夏のひととき、飲み物に手をつけずに物思いにふけっている場面が想像されます。アウトフォーカスのお店の灯りや左腕・時計も画面の効果を高めています。

佳作　　今泉　水季「春なのに」牛久栄進高校２年

一見見逃しがちな作品だが、桜咲く春の日差しの中、お面をかぶった女子高生が建物のガラス戸に映っている。やらせかも知れないがつい見入ってしまった。作者の感性を評価したい。

平成30年12月6日　講評　飛毛 操